

住民の皆様と一緒に「流域治水」を進めていきます！

取組の趣旨

近年、気候変動により激甚な水害が頻発しております。平成30年7月豪雨等では、堤防の決壊等が発生した結果、広い範囲が浸水し、多くの被害が発生しました。こうした状況を踏まえ、今後は「流域治水」を推進していく必要があります。

【流域治水とは】

河川対策・流域対策・ソフト対策を総動員して、洪水被害を最小限に抑える

- ・河川対策（河川の拡幅、堤防強化、河川内の樹木伐採等）
 - ・流域対策（住宅の雨水貯留機能向上、田んぼダム等）
 - ・ソフト対策（避難体制の強化、マイタイムライン、避難スイッチ等）
- ☑国土交通省の説明動画



流域治水は流域内のあらゆる関係者（行政、住民、企業等）が協働して取り組む必要がありますので、住民の皆様と丁寧に意見を交わしながら進めていきます。

●意見交換の方法

令和3年5月18日設立

大路川流域治水協議会

【目的】

- ・流域全体の視点で取組の方向性を議論する。

【メンバー】

- ・住民・・・地区毎に3名程度（地区会長、自主防災会長等）
- ・行政・・・県、市の関係部局



地区単位での意見交換会等

【目的】

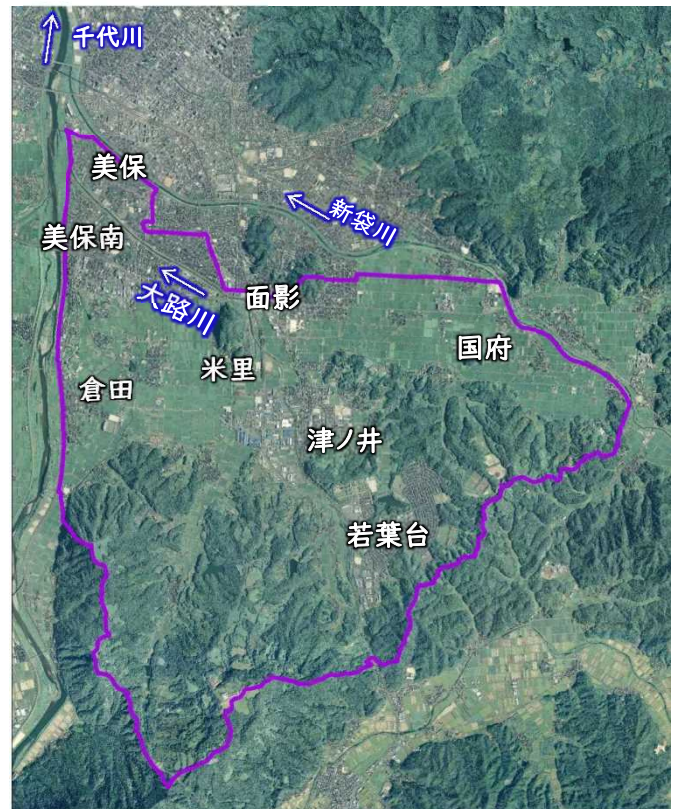
- ・流域治水の必要性を住民の皆様と行政が共有する。
- ・住民の皆様のご意見をお聴きする。

【実施方法】

- ・地区単位での意見交換会
- ・小中学校での防災授業等

【対象】大路川流域内の全8地区

美保、美保南、倉田、面影、米里、津ノ井、若葉台、国府



大路川「流域治水」協議会(第1回)の開催結果、今後の進め方

大路川「流域治水」協議会(第1回)を5月18日に開催しました。

- ・日 時 … 5月18日(火)19時~20時40分
- ・場 所 … 8会場(県庁・東部庁舎・鳥取市役所の計8会議室)に分かれてWEB開催
- ・参加者 … 全8地区の住民代表者 計26名(各地区3名程度)

[意見交換のテーマ]

- ・流域治水の必要性を共有した上で、第1回目の協議会として、まずは「雨水貯留対策」についての意見をお聴きしました。

[参加者の主なご意見]

- ・洪水時はいつも不安。住民には若葉台に避難をするように呼び掛けている。上流域の皆には少しでも雨水を貯留していただきたい。【美保南】
- ・河川の水位を下げるため流域全体で雨水貯留対策を進めることは賛成。まずは住民の意識を高める必要があり、貯留効果を実感してもらうことが肝要。このため、貯留効果を数値で示してほしい。
(例:貯留タンクや田んぼダムにより、どれぐらい浸水を遅らせることができるか)
【美保、倉田、米里】
- ・住民の意識を高めるためには目に見える形で雨水貯留対策を示すことが肝要。このため、地区公民館に自前の雨水貯留タンクを設置することを検討している。【面影】
- ・雨水貯留対策よりも河川の維持管理(樹木伐採、施設点検等)を適切に行っていくことのほうがよっぽど効果大きい。【倉田、津ノ井】
- ・地区内に多くのため池があり、洪水前に水位を下げておくことが効果的。
【津ノ井】
- ・地区内に洪水調整池が2箇所あり、池内の土砂撤去が効果的。【若葉台】
- ・雨水貯留対策を実施する住民に対する行政支援があると取組が進むだろう。【若葉台】
- ・用水樋門については、水田のための取水だけでなく、下流域の浸水を助長させないような開閉操作を検討する必要がある。【国府】
- ・荒れた山林を適切に管理し保水能力を高めることが効果的。【国府】

●今後の進め方

- ・各地区で意見交換会を実施します。

※当初は、流域治水に関する啓発を進め、流域内の住民の皆様・行政等関係者が一緒になって流域治水に関する理解を深めていきたいと考えております。

※新型コロナウイルス感染症対策をとった上で安全に実施する必要があります。このため、参加人数を制限させていただく場合がありますが、継続的に意見交換会を実施していき、少しずつ参加人数を増やしていきたいと考えております。